

## 高く、広く、そして豊かに

校長 沖田浩史

令和5年度、松山中学以来145周年を迎える松山東高校の1年が始まりました。

保護者の皆様には、日頃から、本校の教育活動に対しまして、ひとかたならぬ御支援と御協力を賜り、心から感謝申し上げます。本校は、学習、部活動、学校行事と、さらなる高みを目指し、150周年に向けて発展を続けているところでございます。今後とも、よろしくお願いたします。

私は、今春の異動により、松山東高校に着任いたしました。私自身も、かつて東高生の保護者であり、子どもの弁当作りはできませんでしたが、日々、制服のアイロンがけをしておりました。今度は、その東高の制服を着た生徒たちのために、力を尽くしてまいります。

今年度の始業式や入学式で、私は、本校OBの大江健三郎さんの話を通して、生徒の皆さんにお願いをしました。この場を借りて、改めて保護者の皆様に、その内容をお伝えしたいと思います。

大江さんは、その著書『『自分の木』の下で』の中で、御自身のお子さん、<sup>ひかり</sup>光さんのことについて書かれています。光さんは、現在、作曲家として活躍しておられますが、小さいとき、なかなか言葉が話せず、音の高さや音色にとっても敏感だったそうです。7歳のときに、1年遅れて、今の「特別支援学級」に入ったと、本には書かれています。

大江さんは、光さんの姿から、子どもが学校に行く理由について、次のように述べておられます。

「いま、光にとって、音楽が、自分の心のなかにある深く豊かなものを確かめ、他の人につたえ、そして自分が社会につながっていくための、いちばん役に立つ言葉です。それは、家庭の生活で芽生えたものでしたが、学校へ行って確実なものとなりました。国語だけじゃなく、理科も算数も、体操も音楽も、自分をしっかり理解し、他の人たちとつながっていくための言葉です。外国語も同じです。そのことを習うために、いつの世の中でも、子供は学校へ行くのだ、と私は思います。」(『『自分の木』の下で』)

生徒の皆さんも、松山東高校での学習や、かけがえのない出会いと経験を通して、自分をしっかり理解するもの、他者とつながるものを身に付け、グローバル社会で活躍するリーダーとなってほしいと願っています。

松山東高校は、授業や部活動、特色ある学校行事など、学校生活全体を通して、挑戦する力や継続する力、人を思いやる心など、豊かな人間性を身に付けることができる学校です。意見の食い違いがあっても、それを排除するのではなく、他者感覚を持って、他者を<sup>おもんぶか</sup>慮りながら、皆が納得できる答えを見つけられる人になり、その力を持って、社会で活躍してほしいと思います。

始業式や入学式では、このような趣旨のことをお話しし、2、3年生には、そのような、努力・挑戦する姿や豊かな人間性を、1年生に見せてほしいし、1年生はその姿を見て、東高生になってほしい。そうお願いしたところです。

保護者の皆様、私たち教職員一同は、今年度の指導目標「高く、広く、そして豊かに」のもと、将来の目標をしっかりと持ち、それに挑戦し、努力し、成長しようとする生徒の皆さんを、全力で支えてまいります。改めまして、本校の教育活動に対する御理解と御支援を賜りますよう、お願い申し上げます、新年度の挨拶とさせていただきます。